

Young Entrepreneurs Group of  
The Fukui Chamber of Commerce and Industry

# YEG FUKUI



vol. **89**

発行日/平成11年1月1日発行  
発行所/福井商工会議所青年部  
福井市西木田2-8-1  
TEL: 0776-36-8111  
FAX: 0776-36-8588

発行者/田中 義乃  
編集者/山岸 寛士

福居

福井商工会議所 青年部会報

全国青年部広報紙コンクール「優秀賞」受賞!!

## CONTENTS

- インタビュー ..... 2  
福井市中心街整備推進協議会
- 話題の人 ..... 4  
県議会議長 坂川 優氏
- 海外滞在記 ..... 11  
中国・上海友好ビジネス考
- 特別企画《覆面座談会》その2 ..... 12  
女性会員から見た青年部



# JR駅高架下にバスターミナルを!!

福井市中心街整備推進協議会にインタビュー

この度、福井の街づくりを考える仲間として、福井市中心街整備推進協議会のメンバーとのお話・取材を申し込んだところ、快く引き受けていただきまして、非常に感謝しております。以下その報告をいたします。

## 街づくりを官民一体となって考える会

### ■まず、協議会設立のいきさつは?

平成7年に、福井市の方から、官民一体となった街づくりを考える会を作ったらどうかというお話があり出来たわけです。ただ、現実問題としては、“官”の方の動きが鈍いように思われます。特に予算の面において。

## 高架下にバスターミナルを!

### ■現在の活動状況は?

もともと駅前商店街は、JRの駅によって栄えたわけですから、今後も福井市の交通体系の要(かなめ)としての役割を担ったらどうか。バス、電車、車の機能を集めたらどうかと思います。特に、現在の活動としてバスターミナルの確保に力を入れています。交通弱者にやさしい街づくりを考えると、バスの存在は大きいと思います。ただ、現状を見ると、JR駅と郊外バス乗り場、市内バス乗り場があまりに連絡していない。雨の日などは特に大変です。

ですから我々は、高架下に是非バスターミナルを設けたらと提案しています。それによって、駅東側の活性化にもつながります。

## テナント料を安くするよう働きかけ

また、街づくりといいますが、結局はその街で商売しているものが、いかにやる気を出せるかがカギで、逆に今の状態で駅前商店の方にお店の改装とか新規オープンを頼めるかという、いささか問題ですね…。採算の合わない、将来性のないところに投資できませんから…。

そこで、私たちは、借り主の店舗が採算の取れるように、家賃などを下げていただくよう、家主などに働きかけています。その結果、新栄商店街では空きテナントが全くない状態になりました。500万円で開店できるようになりました。今や、テナント料では郊外よ

りも駅前の方が安いんですよ。

## 中心街にもっと行政予算の投入を

### ■協議会はどのような方々で構成されていますか?

福井市中心街整備推進協議会は、ある意味では、商売している人の立場、それを利用する市民の立場、市政の立場、各立場の人たちが集まってスタートして、整備部会、活性化部会、広報部会など各部会に分かれて討議されています。

官民一体の組織と認識してスタートしたわけですから、この場で検討して出てきた提案は、当然“官”も尊重すべきだと思いますが、“官”の考えと多少ずれがあることも事実です。

特に、中心街の方々が多くの税金(固定資産税)を納めているのに、百億単位の投資が今のところ郊外には行われているが、中心街には行われていないことが非常に残念です。例えば、大和田地区(市街地北部)でショッピングセンターのために300億円以上投資するという話もあるようです。

## 街づくり活動により行政に働きかけを!

### ■もう中心街は入らない、という意見もありますが。

核を持たない利便性だけの街を作るのは、将来に問題を残すと思います。特に文化面において。

市民の限界、商業団体の限界、ある意味では福井商工会議所青年部の限界はありますが、街づくり活動をやることによって、空き店舗活用、イベントなどを通して行政に働きかけることは、決して無駄なことではありません。それによって、西武百貨店も残っていますし、“ロフト”も出来ることになったと思っています。私たちは、この状況を作るのに大変な努力を払っています。そのことをわかっていただけたら、と思います。

\* \* \* \* \*

2時間以上の熱のこもったご意見を伺い、街づくりに対する並々ならぬ情熱とパワーを感じました。紙面の都合上一部しか掲載できないのが残念です。

右図は、同協議会が今までボランティアで、何百時間も議論し検討して出来た「ランドデザインイメージ」です。同じ市民として、街づくりの仲間として、議論すべきだと確信しました。

取材、資料提供してくださいました大森氏、加藤氏、古市氏に心より感謝いたします。

(文責:メディア委員会)

# 街づくりコンセプト

福井市中心街整備推進協議会

## 福井21世紀 新・都市生活 ルネッサンス

ランドデザインの深度化にあたり、様々なカタチで福井の振興を図る運動を取り込み、前開発コンセプト「福井おもいでなルネッサンス」を踏襲し、イメージの具現化を表現した言葉としました。

21世紀の福井の街づくりは何をすべきなのか? 「新しいものを取り込むのが上手い」福井の県民性から、様々な次世代商店街の可能性を検討し、ようやく全体像が見えてきました。そして私達はあることを発見したのです。「新しさとは今まで気付かなかったものに気付くことでもある」ということを…

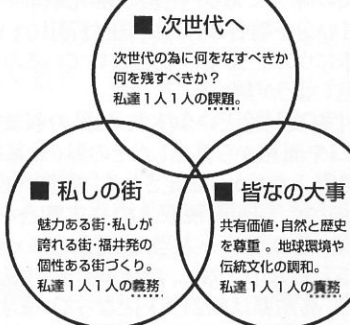
足下にある今まで気付かなかった「宝」すなわち「地元らしさ」に気づく時、「新・都市生活」は始まります。ルネッサンスへの原動力はつねに地元にあるのです。そして、その地元を動かしてゆくのは私達の「街づくりへの思い」なのです。21世紀に向けて、福井らしい福井の街づくりを目指します。

### ■福井市中心市街地整備計画地 名称

**アルコ フクイ**  
ARCO 291  
■アルコパレーノ…7色の虹(7商店街のハーモニー)

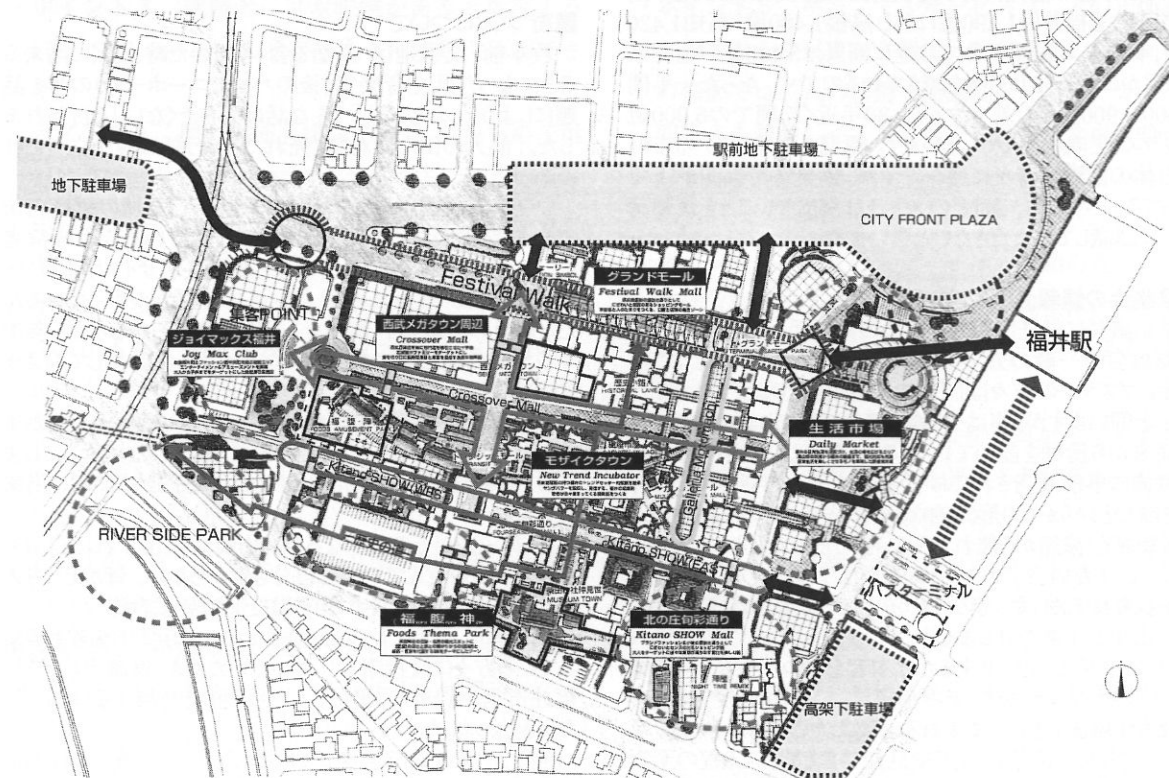
### ■街づくりマインド形成

- 街づくり基本理念…新・生活創造  
グローバルローカルリズムに基づいた発進力のある新・都市生活づくり  
地域の特性と中長期視点に基づいた街づくり
- 人が主役の街づくり  
人間の街…生き生き、わくわく、新しい発見のある街  
人間を基準…人に優しいヒューマンスケールの街
- 人と情報の交流の場としての街づくり  
人が集まり 日常・非日常、楽しさいっぱいの施設づくり  
コミュニティを育て・ビジネスを育て・人を育てる街
- 伝統と現代の融合した個性ある街づくり  
地域の資産(宝)の掘り起こしと育成・地域文化を大切に  
伝統と現代の新しい個性の創造とその融合



# 駐車場計画

福井市中心街整備推進協議会







当青年部OBの坂川優氏は、県政では若手県議会議員として精力的にご活躍でいらっしゃいます。議長という要職に就任されました。福井県では最年少で、全国でも数少ない40歳代の議長ということです。

■原発と県財政について

通産省・資源エネルギー庁や科学技術庁は、福井県には原発がらみの税収や交付金が27年間で6,200億円くらいある筈と言います。が、彼等は「縦割り行政」の悲しさで同じ国の役所である自治省・大蔵省がその為に(本来福井県にもたらされる筈の)巨額の金を逆に削り取っている事を認識していません。

本当は県民の味方であるべき筈の地元紙までが、エネ庁・科技庁の言い分を鵜呑みにして「国は際限ない福井県の地域振興要求にウンザリしている」と書いているのは、全く情けないとか言いようが無いところです。

地方交付税交付金というのは、各県の収支バランスをとるため、人口や面積から算出したその県の「基準財政需要額」と、県税収入などから算定される「基準財政収入額」の差額を埋めるべく、国が国税収入の一定割合を各県に配分するものです。その額が一人当たりどれくらいかという、福井県が約15万円なのに対し、ほぼ同じ人口規模の島根県は約25万円、高知県は約24万円となっています。

例えば平成8年度の福井県の県税収入(原発関連を除く)は約941億。ほぼ同じ人口規模の島根は(同)657億、高知は652億と遥かに小さい値となっています。しかも福井県はこれに原発関連の税収・交付金が約250億も上乗せされて更に差は開きます。ところが、実にその為にこそ、地方交付税は1,230億の福井に対し島根1,890億・高知1,930億、国庫支出金も福井の1,190億に対し島根1,480億・高知1,420億と、何と歳入総額全体では逆に両県は5,400億の福井県より遥かに大きく6,000億を越えているのです。たった一年間で600~900億もの差ですから、30年近くの間での6,000億のプラスなど吹っ飛んでしまいます。原発を立地している市町村自体の財源は確かに豊かですが、県全体では国が「してやってる」と考えているほどのメリットは実はないことを後輩諸氏には認識していただきたいと思えます。

■県議会の情報公開について

私が議長に就任してから、四つの常任委員会と四つの特別委員会でも「傍聴」出来るようにしました。市民オンブズマンの方々は「そんなことは当たり前。もっとすべきだ」と仰いますが、事はそんなに簡単ではありませんでした。従来から傍聴を認めている「本会議」は、質問内容が理事者側に事前通告されており、答弁も予め用意された答弁書を読むというかなり形式的なものでし、議場には最初から傍聴席も(議席から離れた所に)設けられています。

しかし、「委員会」では(予算委員会以外は)事前通告制度が採られておらず、その時の流れでどんな質問や答弁が飛び出すか予断を許しません。部屋も小さく、一定の限られた空間だからこそその「出来るだけ本音をぶつけ合おう」とのコンセンサスも生まれます。その部屋に、いわゆる「反対派」の人達も含め誰でも入って来れるようにしたのです。それも、咳払いどころか含み笑いの声や息使いさえ聞こえる程の至近距離に。昔、関西の(いわゆる外人部隊)過激派学生に家まで押し寄せられた経験を持つ議員さんの賛同を得るのは

並大抵ではありませんでした。委員会もマスコミには以前から公開されているのですが、議員にとってのみならず、理事者にとっても「緊張感」がまるで違います。

最初の一步だからこそ、大きなエネルギーが必要でした。今後は、文書や記録の公開など、一つずつ進んでゆけると考えています。

■事実と真実と

先程の原発に伴う収入の所でも言いましたが、マスコミであれ市民オンブズマンであれ、一部分の事実のみを取り上げて全体を判断しようとする、全体像が見えないどころか、時に全く現実の姿とは程遠い結論を導き出し、他に伝えると云う愚挙を成しかねません。

例えば私の前任の議長と県東京事務所が行政訴訟を起こされました。「使わない県もあるのに、福井の県議会議長が東京でハイヤーを度々使用したのは県費の不当支出だ」という訳です。これなど、多くの書類を持ちながら一日で何ヵ所もの会議や陳情活動をこなす時は移動の車中こそが打合せ場所であること、省庁がタクシーの乗り入れも駐車も禁止していること、福井県のように維持費と人件費の関係で東京に公用車を一台しか持たない小県は知事上京と重なれば議長はハイヤーを使うしかないということ、そうした事情を理解しようとせず、一方的な思い込み・決めつけによって為されたことです。その同じオンブズマンが委員会を傍聴して「以外と(1)真剣に論議されているので感心した」などと述べているのには、あきれました。

マスコミによって形作られた「(自分達はいつも正しいのに対し)政治家はイイ加減な人種で、信用すべきでない」とする風潮はこれからの日本の行く末を危うくしかねないと危惧しています。

■街づくりについて

数年前、文殊地区で「語る会」を開いた時、近くに出来ることになった県立音楽堂(後のハーモニーホール)の事を話題にしようとしたところ、「そんな話は聞きたくない」と言われました。「他人の田んぼが高く売れたと云う話は腹が立つだけだから」と。

一方、駅周辺区画整理事業の地権者や、城の橋商店街で歩道整備のため役所と議論を交わしている若手経営者に、地元で地域の街づくりを考える「旭をデザインする会」への参加をよびかけましたが、「こっちは生活がかかっているんだ。自分の土地の評価額を一円でも上げられるんなら参加する」「店の前の事で精一杯」などと言われ参加して貰えませんでした。

皆さん個人的な利害関係にはものすごい関心を示されますが地区全体のこととなると途端に「他人ごと」となってしまうようです。街を活性化させるには行政任せでは絶対出来ません。

一人一人がその気になる事。街が活性化すれば自分も儲かる。街が沈んでいては自分も儲からない。皆がそう考えるようになる為にも、まず「自分はどうするか」です。

私はまず、議長として(経済同友会の)街づくりを考え議論している方々に直接議会においていただき、県議会の(特に福井市選出以外の)議員さんたちと意見交換する「場」づくりから始めました。

商工会議所青年部諸氏の「街づくり」への夢と実行力に大いに期待しています。一緒に頑張りましょう。

(文責:メディア委員会)



11月27日商工会議所にて第6回メディア委員会を行いました。今回の委員会では、前半に「ホームビデオの実践撮影術」というテーマで研修タイムを設け、失敗しないホームビデオ撮影のしかたを学びました。今回はメディア委員会に限らず全会員に参加を呼びかけ、数名の参加をいただきました。

講師には、青年部OBでもあります、黒田軍治氏(映像テン代表取締役)をお招きして約一時間、ビデオを使いながら熱のこもった講演となりました。

教材は運動会と結婚披露宴が中心でしたが、随所で青年部イベントなどでの撮影ノウハウも織り込んでお話しいただきました。以下、要点を列挙します。

■ビデオカメラ実践撮影術

▶運動会など……競技によって撮影ポジションを変える。

- ・ポイント1 朝の様子も撮っておく(運動会の日は、子供の朝食の様子、学校に着いたら校内の様子なども撮っておくとおもしろい。)
  - ・ポイント2 無理なアップは狙わない(あまりアップにすると、走っているときなど追いきれず、見失うことがある。)
  - ・ポイント3 徒競走には双眼鏡があると重宝する(遠くでスタートする我が子を、双眼鏡で確認できる。)
  - ・ポイント4 他の場面も撮っておく。(自分の子供だけを撮ったのでは、中身が薄くなる。いろいろと撮影ポイントを変えて、変化のあるビデオにすると楽しい。)
  - ・ポイント5 リレーはトラックの見通しのよい場所で。小さくても脚立があればなお良い。(自分の子供が走っているアップを撮ったら、ワイド側に引いて全体の順位もわかるように撮る。さらに撮影しやすい場所としては、入場門・退場門のあたりが前を邪魔するものがなくてよい。)
- 以上のポイントを押さえての撮影で、きっと満足のいく運動会の作品が出来るとのことでした。

▶結婚式……花嫁の思い出ビデオのつもりで撮影する。

- ・ポイント1 式場や両家の表示板をまず撮影しておく(いつ、どこで、だれがということがわかるように、式場の外観や案内表示板また招待状などを最初に撮影しておく。)



- ・ポイント2 お迎えは両人のアップを忘れずに(お迎えとお見送りともにカメラポジションは新郎新婦と来客の間から狙うのがよい。両人のアップを中心に撮っておく。)
  - ・ポイント3 主賓の挨拶は新郎新婦も画面に入れる。(媒酌人の挨拶は正面から撮影。また主賓と新郎新婦が同一の画面に入るような構図を心がける)
  - ・ポイント4 ケーキカットは低い位置から(しゃがんでやや低い位置にカメラを構える。ケーキを切る手元のアップから全体が写るところまでズームバックする)
  - ・ポイント5 キャンドルサービス(二人の正面からと斜めからの両方から撮影しておきたい。正面からの撮影では二人の移動を先回りして狙う。カメラの明るさを調整しくAEロックに注意)会場の暗い感じを出す。またクロスフィルターの装着もおもしろい。)
  - ・ポイント6 友人のスピーチは、笑顔の花嫁を忘れずに(歌や踊りなどの余興は、会場全体の情景も入れて最後まで撮影する。友人のスピーチでは、新郎新婦の笑顔は必ず撮ること。)
  - ・ポイント7 お見送りは両者の間からワイドで撮る。退場する来客とそれを見送る新郎新婦は両者の間からワイドで撮ると表情が写しやすい。)
  - ・ポイント8 花嫁はたっぷり撮っておく(花嫁姿は、機会があるたびにアップから全身また後ろ姿など数多く撮ること)
- 以上運動会及び結婚披露宴を中心に、具体的な撮影ノウハウを聞くことが出来ました。青年部行事の撮影においても参考になることがあり、この研修で、失敗の少ないビデオ撮影が出来ると確信しました。



## 9月例会 石井啓一郎ヴァイオリンリサイタル

(H10. 9月4日)

去る9月4日の9月例会は、芸術の秋に先駆け、「石井啓一郎ヴァイオリンリサイタル」(福井商工会議所主催)の鑑賞会として行われた。

新築なって一年に満たない福井県立音楽堂「ハーモニーホールふくい」小ホールには、青年部会員はもとより多数の観客が、優雅な時間を求めて集まった。演奏の石井啓一郎氏は日本を代表するヴァイオリニストで、日本フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者をつとめる傍ら、全国各地でリサイタル、室内楽演奏会を開き、その独特の美しい音と緻密な構成力に支えられた知的な音楽性は高い評価を受けている。今回はピアノの啓子夫人と共に、華麗な演奏で会場を魅了した。

曲目は全部で9曲で、「朝の詩」：エルガー、「ヴァ

イオリンとピアノのためのソナタ」：ブラームス、「ワルツ」：ショパン、「愛のよろこび」：クライスラー、「宵待草」：多忠亮、「チゴイネルワイゼン」：サラサーテなど。

生の演奏に接する機会の少ない我々は、聞き覚えのある調べにうっとりし、超絶技巧に興奮し、一台のヴァイオリンだけとは思えない豊かで深い音色を十分堪能した。日頃の多忙な生活を忘れ、優雅なひとときを過ごすことができた。



石井 啓一郎氏

## 10月例会 「神道と経営」

(H10. 10月28日)

経営者は、正しい人間観・宇宙観を持つことが大切

私の所に、10月例会の案内FAXが届きました。表題は、「神道と経営」、講師は「和田八幡宮権禰宜(ごんねぎ)」と「ビジコン、高原裕一」の2人と書かれていました。なんだか変な取り合わせだと思ながら、会場に駆けつけると、なんと「和田八幡宮権禰宜」とは、高原氏のもう一つの肩書きであった。でも、「神道と経営」って何…?

「最初私も、経営と神道(宗教)は分けて考えていました。宗教は心を取り扱う問題で、経営とは、売り掛けが…で、仕入れが…で、経費が…で、その組み合わせがプラスだとか、マイナスだとかいう話だと思います。」私も含めて一般の人々が考えている認識から語り始めた。「私は、ビジネスコンサルティングの仕事を引き受ける時、社長さんとお話をしている、是非お手伝いしたいと思う人と、これは、途中でトラブルかもしれないと予感させる人がいました。直感的にそう思うのだが、何が具体的に違うのかわからなかった。」そうこうするうちに、あっ!これだと思ふ言葉に出会ったようです。「経営者にとって最も大切なことは、正しい人間観・宇宙観を持つ事である。」(松下幸之助)。また高原氏は続けます。「経営という文字の経は、道という意味で、道を営む、つまり、道を選ぶ根本の基本認識が正しくなかったら、経営の道を誤ります。」なんだか、経営って、つまるところ、人間の基本的な所に帰結しそう…。

次に高原氏の生業のコンサルティングについて「社長と

いうのは、ある意味では聖職者でなければならない。(社員に道を示せないといけない。)と思います。コンサルする際、必ず、社員全員に『ライフプランづくり』を行っていただいています。これは、社長が社員一人一人と膝を交えて話し合う事により、会社での仕事の意味を、各人が自分の人生の中での意義を考えてもらうきっかけにしてもらい、各人の人生のベクトルと企業のベクトルが合えば、会社としてのパワーはより発揮されるからです。」と力説します。また、会社の方向性として、「理念やコンセプトを社員に示すと共に、それを実現するための具体策を明示することが大切です。また、それを実行するためにも、その具体策のひとつひとつを業務としてプロジェクト化し、社員全員にそれが浸透するようにしていく事が求められます。」と説いている。

このような話を聞いていくと、経営というのは、単なる経理の計数管理といった技術的なものではないようです。それ以前に、会社を運営する社長というのは、人(社員・顧客)が相手であり、正しい人間観を持つことが重要で、大きくはささない正しい道を歩んでゆくためには、正しい宇宙観が必要なようです。正しい人間観・宇宙観を追求する事は、神道(宗教)が真理を追求する事に繋がってくるようです。それで、ようやく、冒頭のわたしの表題に対する疑問は氷解しました。これで眠れそうです。

「草」記

## 商人の魂、ここにあり!!

第16回商工会議所青年部近畿ブロック鯖江大会 (H10. 10月17日)

台風10号がゆっくりと北上を続け開催が心配されたが、10月17日小雨の中近畿ブロック鯖江大会が開催され、近畿圏からの参加者総勢932名が一堂に会した。

「21世紀の商人たちへ いい仕事してますか」これが今回のテーマであり、商工業者の原点に迫るコンセプトである。記念式典では現況を反映した不況に関するあいさつが多数続き、我々が今いかに深刻な状況におかれているか改めて認識させられた。スライド上映では、近畿が近江商人や堺商人に代表される「あきんど」を多く輩出していることが示され、我々も今商人の原点に帰り、今をたくましく生き抜こうという決意を新たにしました。

引き続き行われた記念講演では、14年間松下政経塾の牽引役として活躍された上甲 晃氏が「不況は大チャンス」の演題のもとに講演。自らの経験に基づく話の中で、「小さな仕事こそ大事にする姿勢がなければいけない、小さな仕事に感謝できる心を持つことが今の時代には必要であり、お客の心にしみるサービスを心がけるように自分を変えなければならない」と、今こそ初心に帰れと熱弁をふるわれた。バブルで緩んだ心にグサリとささる言葉であった。



記念講演会講師の上甲氏

また、続く分科会においても同業種を集めた「商人意見交換会」が開催され、商人の在り方を考えさせられる大変貴重な内容であった。

締めくくりに大懇親会では、今回の大会に集まったメンバーに福井の味を思う存分楽しんでもらおうと、県内の名産品をさまざまな形で料理に使い、福井県をアピール。なかでも福井近海でとれた魚介類などは大変好評で、あっという間になくなってしまった。



近畿7県から932名が集った

私は今回の大会に参加して、たくさんのメッセージを心に帰途についた。真剣に討議に参加したメンバーなら、少なからず私と同じ思いを抱いたであろうと思う。「あきない」のこれからあるべき姿を…。

メディア委員会 松村 顕



同業種同志で語り合った分科会



2階席の一角に陣どった福井会会員



## ロシア沿海州研修生との交流会

(H10. 10月15日)

去る10月15日(木) 県民会館にて「ロシア研修生との交流会」が、ロシア研修生16名(全て女性)と青年部より6名が参加しておこなわれました。ロシアからの研修生は会計・経理方面が専門の方方で、16日間にわたり福井にて研修・企業見学・観光等をすごされ、この日が最終日とのことでした。

交流会はまず自己紹介のあと、研修生の代表の方から少し詳しい研修内容等の紹介があり、最後に意見交換となりました。

専門分野が異なることもあって、生活習慣やまちなみについての話題が中心でしたが、日露両国共きびしい金

融情勢下にあるという認識では一致していたようです。

終了式のあと、懇親会が開催され、ワインを交えながらの交流となりました。

残念ながら、ロシア研修生の方々は英語をあまり理解されず、意志がうまく通じませんでしたが、2名の方は日本語をきれいに話すことができ、彼女たちとは会話がはずんでいました。

来年度も親会議所にてロシア研修生を受け入れるとのことですので、もう少しうまく話ができるようにしたいものです。

前田 裕之



## コンピューター機に搭乗して

(H10. 10月21日)

10月21日、名古屋空港から福井空港までコンピューター機(小型航空機)デモフライトに搭乗させていただく機会を得ました。これは、コンピューター航空の就航実現を呼びかけている福井商工会議所により行われたものでした。

私は足羽小学校5年生の時、YS-11に乗って、お菓子をお土産にもらって以来の飛行機好きということもあり、中日本エアラインサービスのフォッカー50(オランダ製56席)に胸を躍らせて乗り込んだのです。

をかがめながら通り自分の席を探しました。

残念ながら通路側、それにちょっと窮屈。「ま、いっか短い時間だから」と思いつつ機内を見回すと、清潔感にあふれ、椅子もしっかりした作りで、コンパクトで小ざっぱりした観光バスといった印象。

スムーズに離陸——。

時々揺れることもあったけれど、スープを飲む妨げにはならず、ちょうどよい心地で、急に眠気に襲われてきました。

名古屋から福井までたった30分。飛行機の魅力は、スピードと俯瞰で見る景色のすばらしさだと思います。

もしこれがきっかけとなって、北海道や沖縄などへ観光に、東京、大阪など商

用に、あるいはもっと広く中国、ロシアなどとの交流につながるになれば、郷土福井の発展、活性化が……という夢見つつ、無事福井空港に着陸したのでした。

慶松 裕司



短いタラップを上り、笑顔で出迎えの美人キャビンアテンダントの持つアメ玉を2つほどつまみ、すれ違い困難の通路を、少し身

## 青年部全国大会 青森大会

(H10. 11月6・7日)

去る11月6日・7日の両日、全国商工会議所青年部連合会の全国大会が青森にて開催され、我が青年部からも9名が参加致しました。

前日に雪が降ったという青森は大変寒く、はるか八甲田山も山頂から雪に包まれていました。

分科会が青森県内の5ヶ所にわかれて開催され、青森の地域色を生かした大変趣のあるものでした。

分科会終了後には、ねぶたの里において大懇親会が開催されました。ここでも青森特産の食材をふんだんに使った料理が屋台形式で並べられ、特に寒かったことからホタテ焼やねぶたそばなどに長い行列ができていました。ステージではねぶたの踊りも披露され会場中が大賑わいでした。

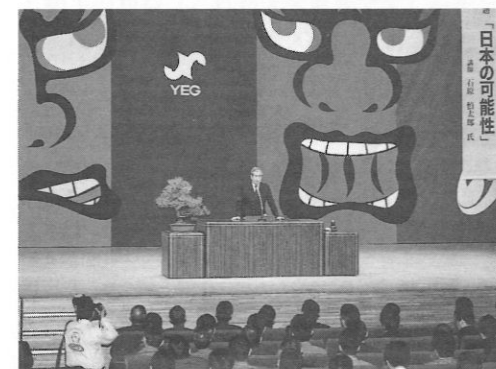
翌日の記念講演では石原慎太郎氏をお招きして「日本の可能性」というテーマの講演が開かれました。青年経済人として知っておかねばならない教育・金融・経済情勢など多岐にわたって鋭い指摘をいただき、参加者一同熱心に聞き入っておりました。

福井からの参加者がやや少なく、残念ではありましたが、なんとも有意義な大会でありました。思うに、こうしたブロック大会や全国大会は参加してこそ、その価値がわかるものであると思います。新しい知識の習得を含めた自己研鑽、全国規模での青年部会員との

交流、そしてそこから生み出されるビジネスネットワークなどです。

来年度は新潟での開催です。少しでも多くの会員が参加してこの貴重な経験を味わってほしいと思います。

まちづくり推進室 前田 裕之



石原慎太郎氏の講演

「ねぶた大賞」の作品と



## 11月例会 悲観的にならず前向きに

(H10. 11月25日)

11月度例会は、11月25日商工会議所において行われた。福井県立大学経済学部の金谷貞夫教授をお迎えし、「中小企業に今思うこと一貸し洩りと向き合う」と題して、ますます厳しくなる中小企業の経営環境について、お話をいただきました。

不況下にあっても、決して悲観的にならずに、前向きに進むことを忘れないことの重要性を感じました。当日のレジメを掲載いたします。



平成10年11月25日  
中小企業の経営革新  
福井県立大学教授 金谷貞夫

- 1 閉塞社会の諸症状
  - 1) リーディング産業の成熟化(成長産業の入れ替わり)
  - 2) 既存産業の空洞化(老舗の苦悩)
  - 3) デフレギャップ(満杯になつた消費需要)
  - 4) 日本の経営の変貌(有効性を失つたウチ意識)
  - 5) コンフィデンス・クライシス(マネーサプライの増加要因?)
- 2 通念の否定
  - 1) 大企業が資本力にのせて横暴を極めている
  - 2) 規制緩和による過当競争で市場秩序が混乱している
  - 3) 零細企業が自己搾取的なダンピングをするので困る
  - 4) 輸入規制をしなければ価格破壊に勝てない
  - 5) 不況の長期化は死活問題だ。救済せよ。
- 3 ダイナミズムの回復策
  - 1) 鋭い合戦経済の復活(資本主義の原則)
  - 2) 資本に対する正当な評価(超底金増政策の修正)
  - 3) 労働集約型産業の復興(雇用こそ社会的安定基盤)
  - 4) ダウンスライジング(small is beautiful)
  - 5) 責任型組織(組織における個人の責任)
- 4 中小企業の本質の再評価
  - 1) 企業家精神(リスクのないところに利益はない)
  - 2) ニッチ市場への適応(価値観の多様化)
  - 3) 立ち上がり(即断即決)
  - 4) 雇用吸収力(高齢化社会と失業の抑止)
  - 5) 夢がある(自己実現の場としての企業)
  - 6) しなやかな組織(スピードが命)
- 5 日本版金融ビッグバン
  - 1) 自己資本比率の充実(頼りにならないメーンバンク)
  - 2) 脱担保主義(担保力より企業力)
  - 3) 人的担保の限界(オフバランスの落とし穴)
  - 4) 企業間信用の活用(信用経済こそ企業力)
  - 5) 人材のバランスシート(ネットワークの広がり)



# 中国・上海友好ビジネス考

## 自分の目的と相手の利益を 理解してもらうために

(株)テクノシステム 代表 佐山 茂



私が、この3年間注目し活動してきた中国について記述したいと思います。

私が初めて中国に入ったのは1992年の上海でした。当時の上海はまだ道路事情も悪く、上海市内まで、タクシーで1時間近くかかったように思います。舗装された道路も少なく、市内の人々は徒歩か自転車がほとんどで、道路には人と自転車があふれ、タクシーはその間を潜るように進んだ記憶があります。



上海近く水郷風景

それから5年、私は海外からの研修制度を自分の会社に活用したいと考え、東南アジア(ベトナム・タイ・インドネシア・中国)を調査しました。勤勉な民族性、強い宗教への信仰や、文字、言葉、感性の違いが多々ある中で、私は中国の将来性と、同じ漢字文化であることから、特に上海近辺に活動拠点を選びました。

当時上海は、日本からの企業進出ラッシュの後のトラブルや撤退など多々噂になっていました。私はこれらの問題の原因は、日本人の考え方とやり方にあったと思います。つまり、何十年か以前の中国侵略を、当時は武器を持って、今は金の力に持ちかえて、中国の人の心や考えを無視し、企業進出という名の侵略を再びやったのではないのでしょうか。

1996年から私は年間4回以上、中国の江蘇省揚州市から、浙江省紹興市を歩き、市政府と話し合いを重ね、少しずつ中国のシステムや中国人の考え方を理解してきました。中国は大陸国でありますし、何千年という長い歴史に培われた国家国民です。今では高速道路も開通し、高層ビルが乱立し、福井をはるかに超える大都市に変身していますが、中国の心はゆったりとしか変化していないように思います。

よく「中国は契約の通じない社会だ」と言われることがあります。私は中国を次のように理解しています。まず自分の考えをありのまま相手に話し、自分の目的と相手の利益(これが大変重要です)を十分理解してもらいます。次に毎晩続く酒宴を心から楽しみ、その地域のどんな料理もおいしいと感じるように心掛けます。その中から心から信頼できるパートナーが必ず生まれてきます。こうなれば、契約などはすぐ締結され、不履行される心配は全くありません。

現在6名の研修生を受け入れ、研修に従事してもらっています。私にとっては最初の期待の何倍もの効果と、研修生自身の成長が、少々の遠回りを喜びに変えてくれました。

今度、一年前の第一期生がこの12月に中国に帰国します。残念ながら、彼らには必ずしも帰国後の就職が保障されているわけではありません。私は中国市政府と交渉し、研修生の帰国後の就職できる会社を決めているところです。できるなら彼らと再研修という制度を利用して、もう1度一緒に仕事をしたいと考えています。



上海(外灘)の旧建物



上海(外灘)の新ビル街

# 誰にも聞けないパソコン用語 (その3)

## “知らないの〜”と言われないために。

十数年前、パソコンが登場した頃からワープロソフトも生まれていました。パソコンはワープロソフトと共に育ってきたと言っても過言ではありません。

また、「ワープロ専用機がいいか、パソコン+ワープロソフトか」という議論をよく聞きましたが、最近では価格の低下やワープロソフトの高機能化で、パソコン+ワープロソフトに軍配が上がったようです。

そこで今回はパソコンのワープロソフトを使う上で出てくる用語を説明致します。

### ■ 一太郎

言わずと知れた純国産パソコンワープロソフトの老舗中の老舗です。徳島の「ジャストシステム」という独立系ソフトウェアハウスの製品で、どこかのパソコンショップでも一番目につくところに陳列されているほどのスタンダードです。日本人が開発した日本語ワープロソフトということもあり、日本人向きの使いやすさや罫線対応などの多機能さから、圧倒的シェアを誇ってきました。最新バージョンは9です。

しかし、最近ではマイクロソフト社「Word」の追い上げにその座を脅かされつつあります。

### ■ Word(わーど)

米マイクロソフト(Microsoft)社が生んだ英文ワープロソフト「Word」をもとに日本語化されたワープロソフトです。

日本語化された当初は、罫線をあまり用いない英文文書の文化で設計された点が弱点でしたが、マイクロソフト製OSの拡大と共に表計算ソフトやデータベースソフトとの連携の良さや、「文書を創る」時の思考を支援するドキュメントプロセッサという概念が受け入れられたこと、更にインターネットの活用に関連したネットワーク対応などにより近年急激に普及しています。

### 【一言ヒント】ワープロソフトの選択

これからパソコンを購入する、またはワープロソフトを練習するという方に一言。

パソコンは文房具に近づいているということです。どの電卓を選べばいいのかということと同じで、どのソフトもできることに大差はありません。いずれのソフトも十分すぎるほどの機能を持っているので、近くに教えてくれる人がいるとか、周囲(会社など)との文書交換を考慮して選ぶのが一番近道です。

### ■ フロント・エンド・プロセッサ(FEP「フェップ」)

正確には漢字変換フロント・エンド・プロセッサというソフトで、アプリケーションソフトで日本語入力するための、日本語漢字変換を行うソフトです。これは、新たに購入する必要はなくワープロソフトに同梱されています。

一太郎が有名になったのも「ATOK」(エイトックと呼ぶ)というFEPの変換効率の良さからでした。一方「Word」はWindowsの標準FEPである「MS-IME」が標準装備です。

しかし、ワープロソフト本体は「Word」でも、日本語変換は使い慣れた「ATOK」で、というような組み合わせができるのもパソコンならではの事です。

何れも変換効率と辞書の充実は十分なので、本体同様使いやすさと慣れで選ぶのがよいでしょう。

27個のアルファベットキーでローマ字でかなを入力する「ローマ字かな変換」と、48個のかなキーで入力する「かな漢字変換」の二通りの方法があるので、本人の慣れと相性で選びます。

### ■ 文書(データ)ファイル

作成した文章はパソコンの電源を切ると消えてしまうので、必

ず、フロッピーディスクやパソコン内部のハードディスクに文書ファイルとして保存します。このとき、Windowsの場合、他のソフト(表計算やデータベースソフト)のデータとの区別がつくようにファイル名の最後にピリオド「.」と文書ファイル特有の文字列がつけます。この固有の文字は拡張子といい、ほとんどのファイルは3文字です。

たとえば一太郎であれば「○○.jxw」などの拡張子がつきます。ただし、一太郎など、その文書を作成したソフトのバージョンが判るよう jxw、jaw、jsw など拡張子を変えているものもあります。MS-Word は、バージョンに関わらず同一の「doc」です。

### ■ フォント

フォントとは、明朝体・ゴシック体などの書体デザインのことです。最近ではワープロソフトや年賀状作成ソフトに、おまけとしてたくさんフォントが付属しています。

通常、Windowsの場合「トゥルータイプ(TrueType)フォント」という、文字の輪郭の形をベクトルデータとして持つしくみになっているので、文字サイズを大きく印刷しても輪郭はギザギザに荒れたりしません。

文書に変化をつけ読みやすくするために、本文、見出し、タイトルをそれぞれ大きさや書体を変えて使い分けれます。

### ■ センタリング

タイトルなど、文字列を用紙の左右の中心にもっていくことです。行単位で指定します。空白で調整してもよいのですが、一行の幅を変更したり、印刷用紙を変更した場合も自動的に中心になるので使いこなすと便利です。

同様に、左右いずれかの端にあわせる機能も備わっています。

### ■ インデント(字下げ)

段落行頭など、行頭に数文字分の余白を入れて書き始めることです。空白文字を使わず、ソフトの設定でインデントを有効にしたいものです。

引用文や箇条書きの内訳などで、2~3行分同様に下がる時でも、自動的に字下げが効き、文字を挿入削除しても空白文字は入らず編集できます。

### ■ ヘッダー/フッター

文書の本文領域外の上下の余白部分に、文書タイトルや注記(取扱注意など)や日付など、全ページに渡って同様の文字列や連続番号をつけることをいいます。

上部をヘッダー(header)下部をフッター/footer)といいます。

\* \* \* \* \*

いかがでしたか。ワープロソフトを使いこなすか否かで、同じ説明資料でも理解度が違うと言われるほど奥深いようです。清書道具としてだけでなく電子文具として是非使いこなしてください。

次回はパソコンを使うためには必ず必要なOS、その中でも「Windows」を取り上げる予定です。

なお、これが分からないという用語があれば電子メールでご連絡下さい。ご返答させていただくとともに当コーナーで取り上げたいと思います。

メディア委員会 堀田雅一  
E-Mail:horita@fukui.hkr.ntt.co.jp





## 「言いたい放題」特別企画《覆面座談会》その2 女性会員から見た青年部

今回は、「言いたい放題」特別企画《覆面座談会》の第2弾として、青年部の女性会員の方にお集まりいただきました。例のごとく個人の氏名、会議場所などすべて明かさないうことで「今の青年部に対して言いたいこと」を本音で語っていただきました。女性、男性の枠などなく、人間としての意見が多かったように感じました。また青年部の女性会員は、バリバリ仕事をしておられる方が多く、途中からの参加の方も交え、酒も飲みつつ多に語っていただきました。紙面の都合と、発言者が特定できないよう、意見はランダムに掲載いたしました。ご了承ください。

### ■まず、青年部へ入った動機、初めの感想など。

・私は自分で仕事を始めて、丸6年、だんだん付き合う人間の幅が決まってしまう、事務所へ出入りしての方が、青年部の人で、その方の紹介で入りました。  
・会社の先輩が「入るか」と言ったのでほとんど判らないまま入りました。青年部のイメージとしては、えらい方、特別の人、すごい人の集まり、でも入ってみると、アレ…。(笑い)  
・青年部の人から、おまえは世間を知らないので、青年部へ入れと。入ったら少し知り合いがいて、すんなり青年部に受け入れた気がする。何をしても知らなかったけど。  
・最初少し青年部の仕事をいただいていた、しばらくして入りました。でも今思うと増強の時期だったのかも。  
・仕事の話とか、ガチガチの話をしたと思って期待して入ったら、キャンプの話とか遊びの話が多くて、そんなこと何の意味があるのかなと思った。でもそのことが色々世界を広げてくれた。  
・まだ、委員会しか出ていませんが、3単会交流会に出席してとても楽しかった。イロイロ知らない話、仕事とか遊びとか、でも真剣に話して仕事とはまた違って勉強になります。  
・最初はすごく緊張していたんですが、委員会の雰囲気は思っていたのとぜんぜん違って、とてもうち解けました。例会はまだ緊張しています。

・商工会議所はお金を貸してもらえるところだと思っていた。企業を起こしたら、商工会議所に入らなくちゃいけないと思って

いた。それしかないと思っていた。

・あまりにもイロイロな活動のファックスがくるので、たいへん。毎日、仕事や青年部の案内、それへの返事で、もうパニックになっています。

### ■では、青年部の活動内容について思うことは。

・先輩にいい人がいっぱいいて、100人の個性があるのがスゴイと思う。バラエティのある人がいっぱい。個性がありすぎて、「言うことキカンげ」という感じ。  
・ちょっと変わったことすると、話題にのぼるし、盛り上げてくれるし、やりがいもあるし楽しい。  
・最初は、会合に出ても、その日だけのつながりのみじゃないかと思っていたし出るのが苦痛だった。でもまた出ると、次は声をかけてもらえて、また次もやはり会う人がいて、どんどん輪が広がって、「あがれや、酒飲めや」になると面白くなってしまった。  
・目的は皆違って入ってきている、集まりへの往復時間も入れてその3時間をどう使うかがその人の目的で、私はすごく人生のプラスになっています。  
・時間がないと言い訳してたことがあったんだけど、時間を作るのがあなたの仕事といわれて、納得してから時間を作るようになった。  
・青年部の人、梓にはまっていない、自由に考え自由に発想している気がする。皆が自由に、発想できるのが青年部である。色々相談するとネタがいっぱい出てくる、それが青年部、いかに自分が青年部を使えるかだと思う。  
・青年部が自分にとっては一番になっています。それだけのめり込んでいると言うか居心地がイイみたい。  
・せつかく知りあえたので、もし青年部をやめても、それで終わってしまったらおかしいと思う。昔は、先輩後輩、上下関係が多分あって、それがとても良い関係を作っていた。指導にきびしさがあった。励ましがあつた。間違いは間違いで指摘された。いまはピリッとしたところがない。男が男じゃない感じ。言いたい事は言えばイイのに何を考えているのか解らない。ぶつかるとかイイヤなのね。  
・先輩後輩、上下関係があまりない、いやほとんどなくて組織としては組織でなくなっている。先輩に怒られることもなく、なんかそういうところが寂しい、励ましのための怒りとかなく寂しい、ピシッとしたところがない。しかしそんなところがいい面もあるけど、でも「仲良レクラブ」じゃないと思う。  
・ほかの青年部との交流会など、もう会うこともないのに「なんで」と思っていて、最初はものすごく出席も苦痛だった。と



ころが色々活動するとまた会ってしまう。会うと話が弾み良かったと思った。

・仕事で、青年会議所を少し知っていたのですが、遊びのことばかりで、青年部も同じだと思っていました。でもぜんぜん違って真面目ですね。  
・レクレーションの時、男性の顔が通常の青年部の時とまるで違っていたのが印象的。奥様やお子様の前ではやはり良きパパなんですね。  
・例会以外の場、たとえば2次会とかレクレーションなどで積極的に交流を持ったほうが、会員の中で精神的つながりが強くなると思う。それに出てこないのが、会員同士の結びつきが弱くなっているような気がする。  
・突っ込んだ話をすると、結構かえって来る。そこまで男性と話をすればすごく為になる。  
・最近、会報の表紙は女性のスナップばかり、広報委員長のカラーで決まってくるのだけれど、女性を、そのなんというか、けしからん感じがする。それよりも自分たちが載っているほうが、愛着がでると思う。目を引くのはいいのかもしれないけれど。我々の会報なんだから、でもイイかな。うーん。  
・共通項の人がいっぱいいるんだけど、なじみやすい殻にはまってきている気がする。馴染んできたというかマンネリと言うか。  
・イベントをやるというのが、企業人としての活動ではなく、言うなれば息抜きみたいになっている、でも真剣にやっている委員長から言わせると頭にくるかもしれない。  
・家庭の息抜きに青年部を使うな。男性諸君。  
・卒業した先輩から「卒業証書もらうのがいい、学校を卒業したらもうそういうことはない、どんなことでも卒業というのはいいいもんだ」といわれ納得した。それは自分自身の問題、やったという達成感とかの事だけ大切な事だと思う。時間の使い方とか、青年部ではほんとに勉強した。  
・出会いの場、青年部を止めたからといってそれで終わるのはおかしいと思う。青年部をやめた人との繋がりがほとんどなくなってしまっているのがちょっとさびしい気がする。  
・一番忙しい時間に、例会とかある。それはみんないっしょじゃない。  
・卒業まであと少しなんだけど、私は青年部で何ができるのかなと考えてる。「女性初めての会長をしたら」(ハ、ハ、ハ)

### ■活動する上で周りの対応が気になったことは。

・女性だから、かわいがってもらえるところがある。それは多少うれしい気がする。本当はそんな感覚は良くないのかもしれないけど。本音はうれしい部分もある。それが良くないのかもしれない。  
・街づくりにまで思いが行かない。小さな企業をしている人で活動的な人がいたが、家庭とか持っていると、何に価値

があるか全然違ってくるし、やはり目の前の事に目が行ってしまい本音で話にならないみたい。

・自分に問題意識がない、困ったことがないから、ひとの話を聞いても現実離れして真剣になれない部分がある。  
・一番最初に入ったときに、女性として見ないで、と騒いでいたけど、みんなやはり女性としてみるじゃない。人間として見てと言ったんだけど、やはり女性として見られている気がする。最初は新鮮だから見ている、最初挨拶したときの、皆さんの目ついたらもうすごいなのって、すごく感じた。  
・子供をみてくれる人がなくて、オリエンテーションに出られないのです。出席してたのですが、とっても楽しみにしていたのですが、やはり未だ子供が小さいのでごめんなさい。  
・なんで結婚しなかったか、好きな人はいたんやけど、どっかしかできないんです。不器用なんですね。  
・専業主婦にあこがれてます。子供のためにホットケーキを焼くお母さんになりたい。ほんとは青年部の理想、指針なんか頭がない、女性としての普通の役割をしたいのと、そうではないはざ間で悩んでいます。  
・私はみんなとベトナムへ行ったから男性のことわかったわ。ここではとてもお話できないわ。(しばし秘密の話)  
・もう少し家庭が落ち着いたら、出られるんですけど。  
・子供を連れて、クリスマスパーティーに出たい。



### ■女性会員をもっと増やしたいと思いませんか。

・女性を会員に誘ったことがありません。誘うことを意識しなかった。誘う余裕がなかったと言うのが本音です。  
・青年部の魅力をまだ自分自身がわかっていないので、人にも薦められない。それだけ活動に身が入ってないって事かな。  
・女性がなぜ少ないのかな。女性会員は全員独身。組織的なことが嫌い。誘うことをしたことが無い。誘ってもなかなか難しいと思っているので、その人が本当にその気にならないと難しいと思うので正直言って誘えないのが本音です。

\* \* \* \* \*

ということで、話は尽きないんですけど、皆さん青年部が好き、でも問題もいっぱい。いい人もいっぱい、でも少し物足りない、でも自分ももう少しがんばらなくちゃ、との事で、本音もチラリと出たみたいです。これらの意見をどうとらえるかは、読者各位におまかせいたします。

(文責 メディア委員会)



## 男の3分クッキング 2

栃谷 賢一郎

## リレーコラム

2回目の男の3分クッキングは、ご要望通り冬の王様「かに」です。ちょっと変わった調理方法で食べてみてはどうでしょうか？

### 『かにのキムチ鍋』

#### ■材料（4人分）

- ・かに……………1/2～1ばい
- ・ねぎ……………2本
- ・白菜……………300グラム
- ・白菜キムチ……………300グラム
- ・春菊……………適量
- ・こしょう
- ・ごま油

#### ■作り方

- ① かににはキッチンばさみ等で食べやすくさばく。

- ② ねぎは斜め切りにする。
- ③ 白菜はざく切りにする。
- ④ キムチは2センチ幅程度に切る。
- ⑤ 鍋に水5カップを入れ②と③を煮る。①、④、春菊の葉先を摘んで加え、こしょう少々とごま油大さじ1を加えて味を調える。  
※キムチは汁ごと入れて調味します。キムチを入れてからは煮すぎないのがコツ！

さて、この鍋の気になるカロリーは、なんと一人あたり104kcal！ 少ないですねー。日本酒の肴にはピッタリ。でも飲み過ぎには注意してください。

以上、ダイエットにもいい「かにのキムチ鍋」でした。

次回は五十嵐嘉紀君よろしくお願ひします。

## YEG 伝言板

## 私の知ってるおいしいお店

### ■天ぶらの『天春』

福井市順化1-7-9  
片町パレビル1F  
TEL 0776-23-4727

旦那は、私の同級生で、親友でもあり悪友でもあります。大阪で板前の修行をし、東京の四谷で天ぶらの技を極め、福井でお店を開いて10数年、変わり揚げに定評があります。奥さんは九州の人で、気っぶのいい人です。おすすめは、5,000円くらいの天ぶらのコース。くれぐれも、私の過去を根ほり葉ほり聞かないこと。

< 森永 克彦 >

### ■ペスカトーレ

福井市南四ツ居1丁目14-3

「ひょっとしてペスカトーレをお探ですか？ よかったらご案内しましょうか。いえね、私もあの店に行く途中なんですヨ。ここを左に曲がるとホラ、あそこがお探しのイタリアンレストラン ペスカトーレ。料理はもちろん、エスプレッソは最高ですぞウ。さ、つきました。」  
「イラッシャイマセ。」「やあジェイク、いつももの。」

< hiromu M. >

### ■Ryu's

福井市高木中央2-3501-1  
TEL 0776-54-1595

酒・音楽・食・コミュニケーション、他とはちょっと？ 豊富なカクテル・なかなか手に入りにくい洋・日本酒もKeepできます。ハードロックからバラードまでリクエストに応じてくれる。滅多に食べられない食材も…。奥様と・彼女と・愛〇と…いかがですか。

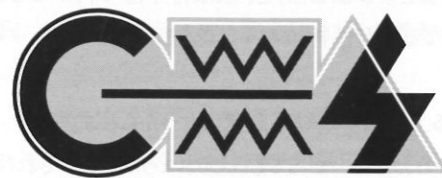
< サンパウロ・タヤコ >

問題は解決しましたか？  
手続は進んでいますか？

### 橋 社会保険労務士事務所

福井市和田東2丁目1711番地  
Tel 28-6500 Fax 28-6622

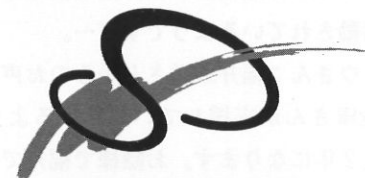
自動車販売・保険・钣金塗装・車検整備



CAR ENGINEERING SALES

## カーエス株式会社

〒910-0805 福井市高木1-902  
TEL 0776-54-0603 FAX 0776-54-0614



次代をひらく風

地域に新しい力を



## 福井放送株式会社

本社/〒918 福井市板垣5-105  
TEL:0776(34)2800 FAX:0776(34)4700  
支社/東京・大阪・金沢・名古屋・敦賀

環境の世紀確かな煌き

## ホクコンアーステクノ株式会社

コンクリートパイル製造・各種杭打工事・地質調査

本社 福井市今市町66号19番地の2  
TEL 0776-38-3833(代)

営業所/福井・金沢・敦賀・近畿・京滋  
福知山・神戸・東海・ジオ北陸

青年部はじまって以来の快挙

## 全国青年部広報誌コンクール 優秀賞 受賞

全国商工会議所青年部連合会主催の平成10年度「広報コンクール・広報誌部門」におきまして、当青年部からも毎年応募している会報「福居」が、今回見事“優秀賞”を受賞したというニュースが年末に入ってきました。

応募総数68点の全国の広報誌の中から、厳正なる審査の結果、本誌「福居」を含め7作品が選ばれました。

これもひとえに、お忙しいなか原稿執筆していただいた会員皆様のおかげです。メディア委員会一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 編集後記

今回も取材は多方面に亘りました。カバーインタビューのサトウワカバさんには講演の合間をぬってお話をお伺いしました。また、言いたい放題座談会では青年部花の女性陣に集まっていただき、大いに語っていただきました。そして、THE研修では、新しい試みとしてメディア委員会の勉強会を、会員オープン参加にし、ホームビデオの撮り方についてみんなで学びました。皆さんからも勉強会でこんな事をやってほしい、というご要望がありましたらメディア委員会までご一報を。

メディア委員会 副委員長 福岡 靖





## 福井でも定着した黄色いハンカチ エッセイスト・サトウワカバさんにインタビュー

### プロフィール

春江町生まれ。週刊「女性自身」記者として活躍後、作家活動に入る。

現在、フリーのエッセイスト、ノンフィクション作家として健筆を振るうと共に雑誌・テレビ・講演などで全国的に活躍している。

主な著書：「女の流行仕事」「ワカバさんの正しい悩み解消法1・2」

全国黄色いハンカチ運動推進本部 代表。

■聞き手(田中会長)：春江町ご出身だそうですね。

●サトウさん：高校までは福井にいました。大学から以降はずっと東京ですが、福井には母がおりますので年に何度かは帰ってきます。



■「黄色いハンカチ」で私がまず思い浮かべるのは、昔ヒットした日本映画の「幸せの黄色いハンカチ」なんですけど…。

●サトウさん：そうですね、あの映画の原作本の著者ピール・ハミルは、黄色いハンカチに“くじけない心”を表現したかったのだそうです。

また、黄色という色は専門家にきくと、唯一色盲の方でも判断できる色だそうです。それがこの色を選んだ最大の理由なんです。

■この運動と出会われたきっかけは。

●サトウさん：ある取材で福島県を訪れたときに友達から、この運動の創始者である宇野弘信先生を紹介されたのがきっかけです。

その当時、損得でしか生きていなかった自分にとって、病気の体にもかかわらず、私財をなげうって人のために尽くしている姿をみたときはショックでした。先生曰く、「人と人との出会いは相手に喜んでもらうところから始まるもの、そこからいろんな出会いが広がっていけばこれほど素晴らしい財産は他にない。」とのことでした。

今日もこのインタビューが読まれることによって、「黄色いハンカチ運動」を知らなかった人が、一人でも多く理解してもらえるようになればこんなに素晴らしいことはありません。

### 黄色いハンカチ運動

11年前に、栃木の薬草研究者 宇野弘信氏が自分自身の体験からスタートさせた運動。

街中などで、突然体が動かなくなった、助けを求めようにも声が出ない、といったときに「手を貸してください」というSOSの合図になるのがこの「黄色いハンカチ」です。障害者や高齢者はもちろん、健常者にとっても万が一の備えとして、携帯を呼びかけています。

県内では、平成8年からスタート。福井県黄色いハンカチ推進委員会のメンバーが、ボランティアで普及を進めています。この「黄色いハンカチ」は福井信用金庫各店と福井放送の受付にて無料配布しています。

■コミュニケーションは受け手側に決定権があるといえます。そういう意味でこの運動は、お年寄りや障害者など弱者に対して、愛情をもって広めていくことが大事ですね。

●サトウさん：この運動で実際助かった人を見ると、障害者や持病持ちの人というよりは、むしろ普通の人が多いのです。つまり、この運動は誰もが対象なのです。誰だって、いつ倒れて助けが必要になるかもしれないでしょ。

■福井の県民性として、思ったことを口に出したり、行動に移すのが下手だと言われます。困った人が黄色いハンカチを振ったときに、助けてあげようと思っても、なかなか行動にあらわせないタイプの人が多いような気がするのですが…。

●サトウさん：確かに福井の人ってそういうところで損をしているかもしれないですね。思っている言葉や行動で相手に伝えなければ絶対に分からないものです。まず声をかけることが大事なんです。

■福井でのこの運動は、福井信用金庫さんが中心になって活動されているようですが…。

●サトウさん：福井放送さんからのお声掛けで、福井信用金庫さんが応援していただけるようになってから、丸2年になります。お陰様で福井でもすっかり定着してきました。私の願いは、SOSのときの白いハンカチのように、早く黄色いハンカチの意味を誰もがわかるようになってほしい、ということです。

■我々も陰ながら応援させていただきます。本日はお忙しいところ本当にありがとうございました。

(福岡 記)